

宮田・大師山古墳群

ここ大師山遊歩道の一帯には、大師山古墳群・宮田古墳群の貴重な遺跡が眠っています。

丹波篠山市西紀地区には、三万年以上前の旧石器時代から縄文時代にかけて、人々が生活していた痕跡（板井・寺ヶ谷遺跡）が残されています。

その後、朝鮮半島から渡来した人々と在来の縄文人が出会い交雑して、稲作を生活手段とする人々が生まれました。その人々は、北九州にはじまり、瀬戸内海や四国・山陰を経由して、日本列島を東へ移動していったと考えられています。この地にも、そのような人々とともにその道具類と生活様式が流入してきたことでしょう。

周辺から弥生時代前期の土器（口阪本遺跡）が見つかるほか、弥生時代中期ごろの遺跡が多数発見されています。宮田川に沿う平野部で稲作を中心とした農耕の跡、右岸部の丘陵には住居跡や墓地跡が見つっています。

この近辺でも、三世紀には墳丘墓が形成されるようになり、そこには素環頭太刀（内場山墳丘墓）、鉄剣、鉄斧や鏡、玉類（上板井古墳群）などが副葬されるようになりました。

六世紀になるころには、宮田川左岸の丘陵地に大師山古墳群・宮田古墳群が築造され、そこから鉄刀、鉄剣、鉄鏃、鉄斧、鉄鎌、鉄鋌（朝鮮半島から運ばれた鉄の素材）等の鉄器類や鏡、玉類、赤色顔料などが発見されています。それらの副葬品には葬送儀礼に伴うある種の配置規則があったようです。

これらの道具類と生活様式などは、遠く中国大陸や朝鮮半島とのつながりを強く考えさせるものです。

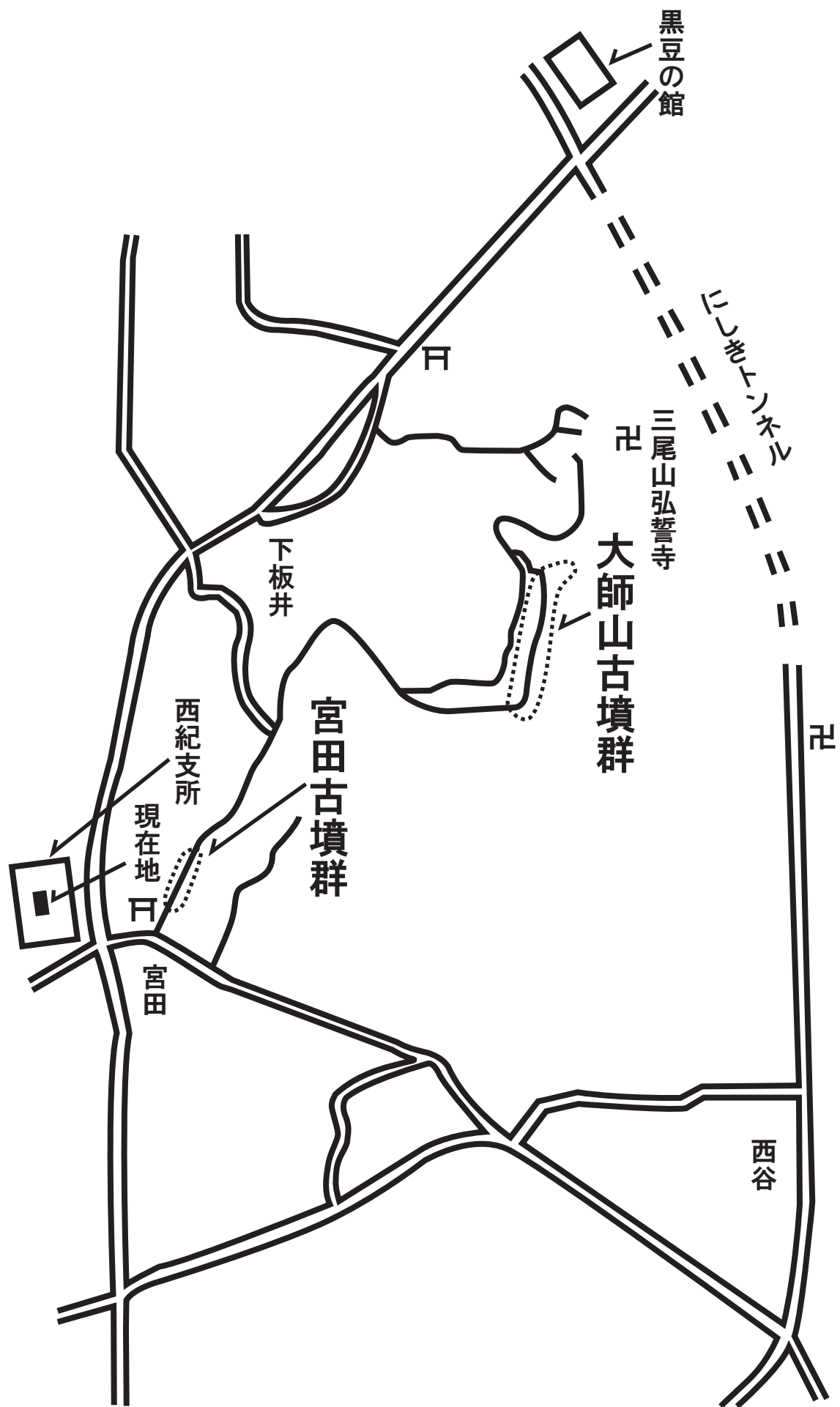
二〇二六年 十月 八日

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会

銘板設置の会

丹波篠山文化顕彰会

資料提供 丹波篠山市教育委員会



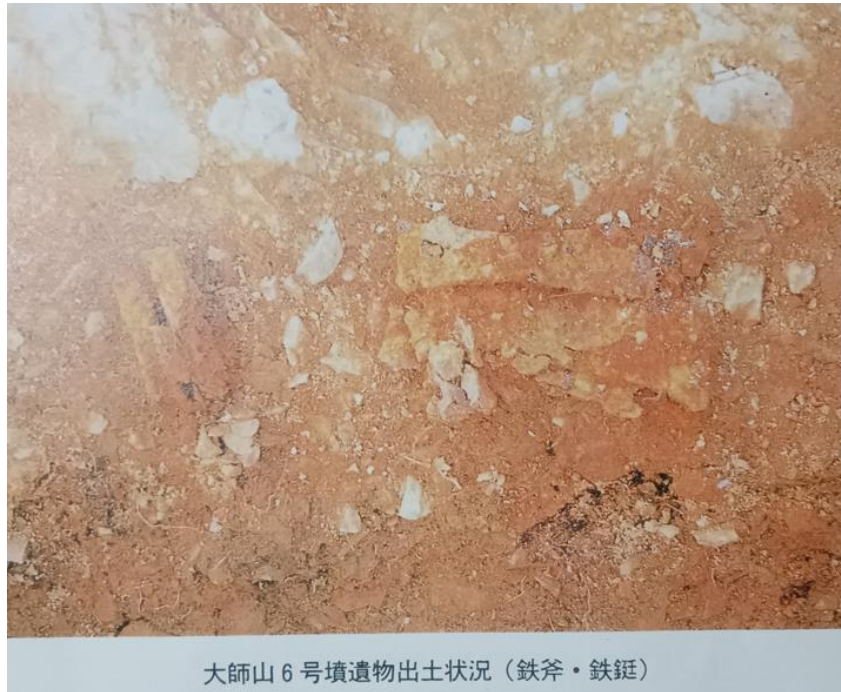
宮田・大師山古墳群

(西紀町,丹南町文化財調査報告第14集より引用)



大師山 6 号墳より出土した 鉄鋌

(西紀町,丹南町文化財調査報告第 14 集より引用)



宮田 1 号墳から出土した 鏡、・装身具

(西紀町,丹南町文化財調査報告第 14 集より引用)



丹波篠山市と朝鮮半島の交流史を

古代から現代まで 一緒に考えませんか

岩波ブックレット No.1046

消えたヤマと 在日コリアン

丹波篠山から考える

細見和之
松原 薫
川西なを恵

故郷の歴史に埋もれ、忘れられた
在日コリアンの足跡をたどる

あなたのまちにも
記憶の鉱山が眠っているかもしれない

わかる、促さるくはじめの1冊
岩波ブックレット

定価(本体620円+税)

